

2 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<p>ア 不発弾処理 クラスター子弾探査グループ、クラスター子弾処理及び不発弾回収処理グループで構成する、カンボジア地雷対策センター（以降「CMAC」と記載）隊員37名に迅速に処理するための技術を座学及びOJTにより教育した。</p> <p>イ 農業支援 試験農場の実演栽培を通じ地域の農民に対し、収益を得るには期間を有する高収益の長期作物と通年栽培できる短期作物の栽培を研修させ農地を有効活用させて収益の得られる農業技術を習得させた。</p> <hr/> <p>CMACの隊員へクラスター子弾の処理要領についてOJTにより教育し697.5haを安全化した。 また、巡回指導を実施し農家の特性に応じた農業指導を実施し専業農家として生計を立てていける栽培技術を習得させた。</p>
<p>(2) 活動内容</p>	<p>ア クラスター子弾の処理 探査グループにより発見されたクラスター子弾をクラスター子弾除去機による破碎処理及び爆破処理により確実に処理し、汚染地域を安全化した。</p> <p>イ 普及教育 (ア) クラスター子弾処理教育 クラスター子弾処理について座学及びOJT等によりCMACの隊員37名へ処理技術及び安全管理についてそれぞれの職務ごと教育した。また、指揮官に対しては部隊運用について指導・教育した。</p> <p>(イ) ドローンの取扱い操作教育 各級指揮官（本部要員、指揮官等）15名に対し汚染地域を偵察するドローンの取扱い操作教育を実施した。</p> <p>(ウ) クラスター子弾除去機 クラスター子弾除去機による機械処理要領を灌木除去機の要員に普及教育を実施し破碎処理要員の拡充を図った。</p> <p>ウ 危険回避教育 不発弾等による被害者を少なくするため、不発弾を発見又はそれらしきものを発見した時の対応について教育を行った。</p> <p>エ 農業支援 (ア) 試験農場の設営運営 試験農場約2.5haに果樹、野菜等を作付けした。農場運営のための従業員を採用した。</p> <p>(イ) 農業用支援井戸の構築 主として乾季に活用する井戸を構築した。また、井戸を活用する共同菜園を構築した。</p> <p>(ウ) 巡回指導 構築した共同菜園を利用する農家に対し農業技術普及のため巡回指導を実施した。</p>

<p>(3) 達成された成果</p>	<p>ア クラスター子弾の処理</p> <p>OJT によりクラスター子弾処理を実施し以下の面積を安全化し環境の改善を図った。</p> <p>(ア) 処理面積 697.5ha (目標470ha) の面積を処理し安全化した。(教育により機械による伐採処理速度や探知速度が向上したため)</p> <p>(イ) 不発弾等の処理実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発見処理した不発弾等 694発 (クラスター子弾645発) ・発見した破片等 38,594個 ・発見通報により回収処理した不発弾等 <ul style="list-style-type: none"> 対戦車地雷 2個 対人地雷 1個 不発弾等 52発 (クラスター子弾 22発) <p>イ 普及教育</p> <p>(ア) 灌木、草原、樹林等各種環境での処理</p> <p>灌木、草原、樹林地域等の各種環境に応じた適正な見積、計画、実行及び監督ができる部隊に教育した。各級指揮官及びディマイナー等各隊員の職務に応じた技術について教育を実施したため部隊として効率的処理ができるようになった。特に、指揮官のブリーフィング要領が向上し、指揮官の意図が隊員に徹底され部隊活動が効果的になった。また、クラスター子弾除去機の操作を適正に教育することにより、より効率的な処理ができるようになった。</p> <p>(イ) ドローン操作と活用法</p> <p>ドローンの操作方法を教育し上空から画像・映像を撮影できるようになった。また、ドローンで得られる資料を分析し地形、植生等の把握し分析する教育を実施した。そのため、的確な処理計画の作成及び探査や処理が効率的にできるようになった。</p> <p>(ウ) クラスター子弾処理の教育成果</p> <p>事業中盤にディマイナー等の練度判定試験により練度を把握し、不足している項目を重点的に教育実施した。これにより、修了時の練度判定では合格基準の70%以上にさせることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別紙第1 「RSCS2年次中間・修了試験成績一覧表」 ・別紙第2 「RSCS隊員の所見」 <p>ウ 危険回避教育</p> <p>ポスターやJMASノートにより不発弾等を発見した時の対応についてセサン郡内の住民、生徒に対し危険回避教育(啓蒙活動)を行った。参加者の殆どは不発弾又は不発弾らしきものを発見した際は触らず通報できるレベルに達していることを確認した。</p> <p>教育回数と人数</p> <p>回数 205回 人数 3,412名 (目標 1,000名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別紙第3 「危険回避教育実施状況」 ・別紙第4 「危険回避教育アンケート調査結果」 <p>エ 農業支援</p> <p>以下の農業活動により安全化された地域の環境を更に改善させることができた。</p> <p>(ア) 試験農場の設営運営</p> <p>a 試験農場の設営</p> <p>乾季用に灌水パイプを設置して、乾季でも栽培ができるように</p>
--------------------	---

	<p>した。また、幹線明渠（めいきよ：地上に設けられた上部をあげはなしたままの排水用の溝）を拡幅し、水はけを良くして雨季でも栽培を可能とした。</p> <p>b 従業員の募集、採用 試験農園の従業員として6名を採用した。6人の内3人が30歳前後であり若い世代にも教育することが出来た。この従業員には農作業に従事させるとともに地域の農家に普及活動ができるよう教育した。</p> <p>c 実演栽培 短期作物及び長期作物として以下の種類の作物を栽培できることも確認し、これらの技術を従業員に教育した。短期作物の栽培サイクルの結節で研修会を開催し、土壌づくり、種まき、施肥、病中害対策等の栽培技術を参加者にも習得させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期作物（短期間で収穫が可能で通年収益が得られる） 大豆、胡麻、トウモロコシ、ナス、トマト、レタス、ゴーヤ、小松菜、スイカ、キャッサバ、パイナップル。 ・長期作物（高収益が得られるが収穫までに数年必要） カシューナッツ、カカオ、マンゴー、ジャックフルーツ、アボカド、ライム。 ・別紙第5 「試験農場全般写真」 <p>d 鶏舎と肥料の生産 50m²の鶏舎（約150羽収容可能）を構築した。この鶏舎でニワトリ及びアヒルを飼育し、鶏糞をボカシ肥料製造に活用した。ボカシ肥料は、月産約1tの生産できるようになった。ニワトリやアヒルの飼育、ボカシ肥料の製造方法について研修者にも教育を行った。（ボカシ肥料：鶏糞や牛糞とわらやもみ殻などを混ぜて発酵させ吸収を良くした有機肥料）</p> <p>(イ) 農業用支援井戸の構築と共同菜園 地域の要望と井戸掘削業者の協力により、試験農場のあるクサクトメイトー村、スバイリエン村にそれぞれ4本ずつ、合わせて8本（計画6本）の支援井戸を構築した。水量を多く汲み上げる必要があるので手動ではなくエンジン又は電動式ポンプとした。各井戸付近に約400m²の農業教育用の共同菜園を開設した。</p> <p>(ウ) 巡回指導教育 建設された井戸近傍の共同菜園を利用する農家に対し試験農場での農業技術を巡回指導した。27戸の農家を対象に、全8回の巡回指導を実施した。その結果、全農家で教育指導した作物について適正に栽培を実施できるようになったことを確認した。また、8農家は栽培を教えることができるまでになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別紙第6 「巡回指導 理解度チェックリスト」
(4) 持続発展性	<p>ア 不発弾処理 今事業では、機械化（クラスター子弾除去機）の導入によりクラスター子弾を爆破処理することなく処理する技術の普及教育を行った。また、部隊を効率的に運用する技術も教育した。その結果、クラスター子弾の処理が迅速に実施できるようになった。この技術はクラスター子弾に汚染されている地域が多く残っているカンボジアでは、その</p>

	<p>除去を担当する CMAC に必要な技術と思われる。このことから、CMAC は、引き続き習得した技術を継承していくものと思料する。</p> <p>イ 農業支援活動</p> <p>試験農場を通じて、厳しい環境でも通年にわたる栽培が可能な農地の構造の一例を示した。また、実際に年間を通じて栽培できる短期作物の栽培、収益の高い長期作物も実演栽培した。そしてそれらの技術を研修や巡回指導で農家に教育した。その結果、農家は専業農家として自立していけるとの実感を持つまでに至っている。これらの技術はこの地域で継承されていくものと思料する。</p>
--	---